

尚綱学園の長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画(概要)

～SEI Vision 2013-2022～

I 学園の目指すべき姿(将来像)

学園のミッションを実現するためのビジョンを定めるにあたり、目指すべき方向性として「3つの目指す学園像」を掲げています。この3つの目指す学園像は、学園を取巻く主要なステークホルダーが求める将来像を前提に、学園が「将来、かくありたい」という目指すべき姿を表現したものです。

【主要なステークホルダーが求める将来像】

学園が求める学生像⇒理想とする学生像
<ul style="list-style-type: none"> ・智と徳を兼ね備えた人材(建学の精神) ・尚綱らしさを体現する人材(教育理念) ・人類社会に貢献できる人材(学園の使命) ・自律的、主体的に行動できる人材 ・グローバル社会で活躍できる人材
(社会から求められる人材)
学生が求める学園像⇒学生の満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質が高く、優秀な人材(教職員)が存在する学園 ・キャリア形成や資格取得に有利で、就職先が確保できる学園 ・施設設備を含めた教育環境が充実した学園
地域社会が求める学園像⇒社会からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学園 ・地域に貢献する学園 ・情報発信基地としての学園



II 5年後・10年後の到達目標と中長期行動計画

学園の5年後・10年後の到達目標を描き、その達成に向けた重点施策を中長期行動計画として取りまとめたものです。

1. 教育内容の改革と尚綱らしさの追求

智と徳を兼ね備えるとともに、尚綱らしさに加え、近代女性として自律的・主体的に行動する学生・生徒を数多く輩出し、地域の中堅の人材確保に大きく貢献している。

大学・短期大学部	中学・高等学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部、学科の改革による入学定員確保 2. 新設学部・学科・大学院の検討 3. キャリア教育の実施と尚綱の教育理念の浸透 4. 幼児教育の改革論議(幼保一体化等)を踏まえ、今後、保育所や認定こども園などへの参入を計画 5. 東アジアを中心とする大学との提携を推進 6. サークル活動の活性化 7. 大学・短期大学部において、第三者評価への適切な対応 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化に則した海外修学旅行・研修・国際交流の推進 2. 基礎学力の確立 3. カリキュラムの検討及びコースの再編 4. 中高大学連携の推進 5. 人間教育プログラムの再構築 6. 部活動の活性化と進路保障 7. ボランティア活動の推進

2. 学修意欲あふれる学生・生徒の確保

社会的評価が確立され、大学・短大は、初等・中等教育課程の生徒が憧れ、中学・高校は、進学先として、また魅力ある学校としての大きなウエイトが置かれるなど、学修意欲あふれる学生・生徒が広く受け入れられている。

大学・短期大学部	中学・高等学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様化した学生に対処した教育の一層の強化 2. 国家試験の合格率の向上 3. 出前授業、体験的な授業、オープンキャンパス、入試の強化 4. 同窓会・後援会との連携推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女子教育の長所・強みの広報活動の推進 2. 対外行事の内容及び広報活動の見直し 3. 広報活動の推進 4. 育友会との連携強化 5. 同窓会・後援会との連携推進

3. 学生・生徒支援改革

キャリア形成や資格取得に対する十分な支援がなされ、就業先が安定的に確保されている。

大学・短期大学部	中学・高等学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. 奨学金制度、表彰制度の整備 2. 学生に対する健康相談、心的支援の強化 3. 就職支援の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特待生・奨学生制度及び表彰制度の改革 2. 進路相談・カウンセリングの充実

●尚綱学園の中長期財務計画

計画の目的 収支の改善と安定的な施設設備資金積立の実現

計画の前提条件及び計画終了時の数値

学生生徒園児数は、大学・短期大学部・幼稚園においては収容定員の充足を前提、高等学校は単独で収支均衡が可能な生徒数、中学校は現状実績を考慮して計画値とした。

学生生徒納付金は、学生生徒数の増加と施設設備資金改定の効果により、239,136千円増加すると見込んでいる。

帰属収支差額は学生生徒納付金の増加により、107,009千円の収入超過となり、202,073千円改善すると見込まれる。

施設設備引当資産・減価償却引当資産及び支払資金・短期有価証券を合計すると、1,399,679千円の自己資金増加が見込まれる。

	平成24年度想定値	平成29年度計画値	増減
学生生徒園児数	2,144人	2,390人	246人
教職員数	208人	203人	△5人
学生生徒納付金	1,495,634千円	1,734,770千円	239,136千円
帰属収支差額	△95,064千円	107,009千円	202,073千円
施設設備引当資産減価償却引当資産	300,000千円	1,700,000千円	1,400,000千円
支払資金及び短期有価証券残高	921,523千円	921,202千円	△321千円

4. 研究・指導力向上のための支援

社会の諸問題や地域の特定の課題に対し、種々の研究成果が上がり、その成果が地域や社会から高く評価され、かつ広く発信されている。

大学・短期大学部	中学・高等学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. FD活動の一層の充実 2. 研究費の配分の適正化 3. 研究センターの新設 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導力向上のために組織的・計画的な研修を推進し、研修内容の共有化と実践の督励

5. 地域連携を視野に入れた教育・研究の推進

学園が有する知的資源が、社会の各層に直接的・間接的に幅広く提供され、地域社会にとって身近な存在となり、社会人教育に大きく貢献している。

大学・短期大学部	中学・高等学校
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域との教育・研究の推進 2. 地域に開かれた研究拠点ということを表明していく 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の諸活動の支援とボランティア活動の推進

6. 安定的財政基盤の確立

帰属収支が黒字基調を維持し、安定的な施設設備積立が実現している。効率的・有効的な経費配分がなされ、中長期計画の実現に寄与している。

法人部門
1. 収支の黒字化と安定的な施設設備資金積立の実現

7. 人事制度の改革

教職員の人事制度については、「任期制」「年俸制」「人事評価制度」等が完全に定着し、教職員が正当に評価される仕組みが完成している。

法人部門
1. 人事制度の確立と人材育成の仕組みづくりの実施

8. 組織・運営基盤の改革

理事長、各校長のリーダーシップのもと、社会状況の変化や教育研究機関を取り巻く環境の変化に的確かつ迅速に対応できるよう、不断に見直しが行われ、学園ガバナンスによる法人及び各キャンパスの事務執行が効果的・効率的に行われている。

法人部門
1. 学園の組織運営機能とガバナンスの強化

9. キャンパス整備、学修環境の整備

キャンパスや学修環境の整備が進められ、充実した教育研究環境と快適なキャンパスライフが全学生・生徒に提供されている。

法人部門
1. 学園キャンパスと学修環境の整備及び地域に開かれた学園の実現